

# 英 語

堀 井 洋 一

## 1 英語における「考える子」

本校英語の目標は「コミュニケーション活動を通して英語への関心を高め、聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力を培う」である。これは、簡単な英語を使いながらコミュニケーションを図る楽しさや意義、人とかかわる大切さを感じることをねらうものである。

英語では、英語表現を使って事実や思いをやりとりするときや、他者や異文化について触れた内容を解釈するときに考える。子どもは、英語表現や内容を理解する過程で「分からない。何を言っているのか。」「言いたい。なんとかして伝えたい。」といった「問い」や「こだわり」をもった時に、より深く考えようとする。考えることは、豊かな英語表現の気付きや深い他者理解・異文化理解に作用する。そして、他者や異文化を理解することは、自己理解につながるものである。

英語では次の三つを「考える」と定義し、英語における「考える子」を以下のようにとらえる。

- (1) 今までに触れたことのない表現の意味を推測・理解しようとする。
- (2) 伝えたいことが伝わるように、適切な言語形式を選択して表現しようとする。
- (3) 英語でのやりとりを通して、他者や異文化について思いをもとうとする。

英語表現を選択・活用して コミュニケーションを繰り返す中で  
新たな英語表現に気付き 他者や異文化に対しての思いを深めたり広げたりしていく子

## 2 学ぶ楽しさを味わう英語の授業

英語における「学ぶ楽しさを味わう授業」とは、子どもが「問い」や「こだわり」をもとに他者とコミュニケーションをとる中で、「分かった。」「伝わった。」という満足感や達成感をもつ授業である。英語を使ったコミュニケーションを通して、英語表現や伝え合おうとする内容、そして、自他の違いに興味や思いをもつことで「学ぶ楽しさ」を味わう。

「自分のことを伝えたい。」「相手のことを知りたい。」という思いをもったコミュニケーションを通して英語表現を学ぶことは、子どもにとって必然性のある学びとなる。

「問い」や「こだわり」をもとに他者とコミュニケーションする楽しさには、次の三つが考えられる。

- (1) 伝えたいことを伝えるための言語形式を知り、使えるようになる楽しさ
- (2) 友達の英語表現のよさや内容の面白さに気付き、互いに伝え合う楽しさ
- (3) 英語表現や内容が「分かるようになった。」「言えるようになった。」ことを自覚していく楽しさ

「分かった。」「伝わった。」という感覚を味わえることが英語の楽しさである。子どもは様々な表現に触れて、その意味を理解しようとする。知っている表現の幅が広がっていくことで使える場で活用しようという思いが生まれる。英語表現を使う経験をすることで、使える楽しさを味わう。

「問い」や「こだわり」を友達に伝えることで、知っている表現を出し合いながら協働して解決する学びが成立する。この中で、子どもは友達とのやりとりを通して自他を比較し、互いの表現のよさや内容の面白さに気付く。

英語における子どもの学びには、やりとりする内容が大切である。内容が魅力的で必然性のあるものであれば、子どもは、新しい英語表現に触れたときに「知りたい。」「言いたい。」

という意欲をもつ。そして「問い」や「こだわり」が子どもの中に生まれる。子どもは、このようなやりとりによって「分かった。」「伝わった。」という思いをもち、新たな英語表現や他者理解の深まりや拡がりを実感する。こうした気付きや思いが「もっと知りたい。」「もっと言いたい。」という学ぶ意欲になる。それから派生した「問い」や「こだわり」をもとに学びをくり返すことで、「学ぶ楽しさを味わう」授業となる。

### 3 「学ぶ楽しさを味わう授業」への手だて

#### (1) 伝え合う必然性のある学習内容や場面

子どもが英語を使ったコミュニケーションを楽しむために扱う内容は、子どもにとって興味・関心を高め、やりとりする必然性を感じ取れるものである。Input される英語表現が子どもにとって身近なものであることによって、子どもは、既習や生活経験を活用し、表現を理解して使うことができるようになる。言語形式だけではなく内容を重視したやりとりにより、子どもの意欲は高まり「学ぶ楽しさ」を味わう。相手のことを理解したいという思いをもって英語表現に触れることは英語表現への気付きに有効である。

そのために、学習内容の精選や提示方法、学習の見通しをもった単元構成などを工夫する。やりとりする内容を自己表現につながるものや異文化に関するものを中心にするすることで、内容に興味をもたせ、「知りたい。」「言いたい。」といった思いをもつことができるようにする。

#### (2) 他者理解・異文化理解につながるコミュニケーション

「学ぶ楽しさを味わう」には、「言いたいことが伝わった。」と実感できることや相手のことを「知りたい。」「知ることができた。」という思いをもつことも大切である。

コミュニケーションを通して自他の違いを受け止めることや意識することが、互いの英語表現や内容のよさを認めることになる。授業においてこの楽しさを味わうことができるよう、グループでの協働学習やタスク活動などコミュニケーションの形態や方法を工夫する。

「問い」や「こだわり」をもとにした協働での問題解決や自己表現・他者理解・異文化理解をテーマとしたコミュニケーションは、活動を通して互いを認め合うことになる。他者からよさを認められることにより、子どもは安心感や受け入れられているという感覚をもち、学ぶことを楽しいと感じる。コミュニケーションの工夫により、他者や異文化への思いは深まりや拡がりを見せる。

#### (3) 自分の世界を広げるふりかえり

子どもが、自分自身の気付きや思いを明確にすることで「問い」や「こだわり」をもって「学ぶ楽しさを味わう」ことができる。子どもは、自分の英語表現のよさを自覚し、他者や異文化に対する認識がこれまで以上に広がることを感じる中で、達成感や満足感を味わい自分の成長に気付くのである。

そこで、学びを積み重ねながら自分の変容を意識できるワークシートの形式や自分の学びや他者からの学びを自分に生かすためのシェアリングの形態や方法を工夫する。

学習を通して分かったことやできるようになったこと、気付いたことなどを話し合う場を設けることにより、子どもはふりかえりを通して満足感や達成感を自覚する。一方、難しいと感じたことやできなかったことにも触れることにより、自分を見つめ気付いた課題を認識し、表現したいという思いを強める。

(1) 伝え合う必然性のある学習内容や場面

4年生 自己紹介をしよう“When’s your Birthday?”の実践から 「誕生日インタビュー」

4年最初の単元「自己紹介をしよう」では，同じクラスになった友達のことを知るという見通しをもって，住所や家族など互いのことを伝え合う学習を行った。新しいクラスの中で友達作りをする学習が子どもにとって必然性がある内容だと考えたからである。



資料1 誕生日インタビュー

生まれた月が同じ友だちをさがそう

Class ( ) No ( ) Name ( )

友だちの名前を書こう

1 January [ ]さん [ ]さん	2 February [ ]さん	3 March
4 April [ ]さん [ ]さん	5 May [ ]さん	6 June [ ]さん [ ]さん
7 July	8 August [ ]さん [ ]さん	9 September
10 October	11 November	12 December

資料2 生まれた月が同じ子を書き入れたワークシート

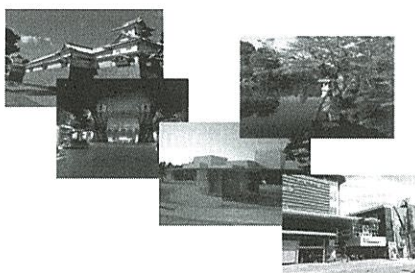
「誕生日インタビュー」では“When’s your Birthday?” “My birthday is ~.”の表現を使って，自分と同じ月に生まれた友達を探す活動を行った。子どもは友達の生まれた月にとっても興味がある。そのため，本時のタスク「同じ月に生まれた友だちを見つける」は，子どもにとって関心のあることであり，学習への意欲付けとなった。子どもは制限時間の中でできるだけたくさん同じ誕生月の子を見つけようと，積極的に友達に話しかけワークシートに友達の名前を書き入れていた（資料1，2）。

活動後には，「わたしといっしょのたん生日の人は1人しかいなかった。」「同じ(誕生月の)人が，だれもいなくてさみしかった。」「4月生まれの人がけっこう多い。」「いろんな人のたんじょう日が聞けて楽しかった。」「たくさんの人に言えたし，同じ月の人が2人いたから楽しかった。」といったふりかえりが見られた。この活動から，子どもは新しい学級集団で自分との共通点を見つけることで仲間意識をもちたいという気持ちが強いことが明らかになった。

しかし，本時では子どもの中に，なぜ質問し合うのかという具体的な目的意識がなく同じ月の子を探す必然性が薄かった。子どもにとっては，「聞いてみたい。」「知りたい。」という思いがある学習ではあったが，「誕生月紹介のために…」という目的意識をもたせるなどの子どもへの投げかけ方の工夫で，友達のことをより深く知ろうとする意欲が高まり，互いに理解することができたと考えた。

5年生 “Where is ~ ?”の実践から 「金沢のまちを案内しよう」

北陸新幹線開業に伴い，金沢には外国人観光客が多く訪れている。そこで“Where is( )?”



資料3 金沢の観光地の写真

道案内をしよう」では，金沢駅で外国の人から道を尋ねられたときにどう説明すればよいか考え，案内する活動を取り入れた。一般的な建物や施設ではなく，金沢 21 世紀美術館，兼六園，金沢城，近江町市場などの観光地のほか，市内に実在するホテルやデパートなど実際に尋ねられる可能性がある場所を取り上げて紹介し合った。

HRT と ALT とのスキットの後，金沢の有名な場所の言い方を確認するときには，写真を提示した（資料3）。ここでは，子どもから金沢市内にある有名な場所や観光地を聞き，それらを英語表現にした。この活動中に，「(近江町) 市場は英語でどう言えばいいのか。」と疑問をもった子どもが ALT に質問し，市場が“market”ということを知った。この時に，他の子どもから「スーパーマーケットと似ている。」という声があがっていた。出合った表現と既に知っている表現をつなげて理解することができていた場面であった。

地図は実際の金沢の市街地をもとに作成した（資料4）。スタート位置を金沢駅にしたことで、子どもは観光地の場所や駅からの方向がイメージでき、場所を思いうかべながら伝えることができていた。

ペア活動では、うまく伝えられなかったり聞き取れなかったりして、案内しようとしたコースから外れてしまう場合もあった。コースから外れた時点で、その場所から改めて案内するルールにしたことで、どう言い直しをすれば相手が目的地に到着するかを考えながら道案内をすることができていた（資料5）。

授業後には「外国の人に道を聞かれた時を想像しながらすると、とても楽しくおもしろかった。」「むずかしかったけど、案内がおもしろかった。」「道案内ができる自信がついた。」「少しとまどったけど、無事に案内ができた。」などの感想を発表していた。子どもはアクティビティの楽しさだけにとどまらず、学んだ英語表現が使えるそうだという見通しや自信をもっていた。

子どもはふりかえりに、「夏休みには使ってみよう。」と書いていた。夏休みには、これまで以上に多くの外国人観光客が訪れることが予想される。実際に使う可能性がある内容や表現を夏休み直前の7月に学習したことは、子どもにとってタイムリーであった。また、学校の中だけではなく実際の生活で生かせる内容であることが、楽しみながら考えることにつながったと言える。

## (2) 他者理解・異文化理解につながるコミュニケーション

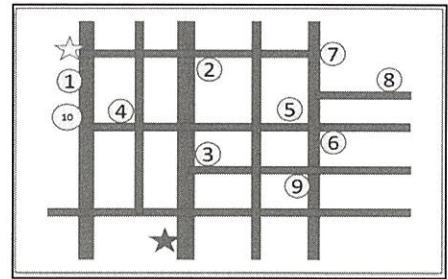
4年生 あなたは～ができますか“Can you ~ ?”の実践から

自己表現や他者理解につながる学習として「あなたは～ができますか」では、単元の最後に、自分ができることを友達に伝えて相手もそれができるかを尋ねる活動を行った（資料6）。

子どもは、これまで学習した表現をもとに自分ができるスポーツや武道、楽器などを相手に伝え、相手がそれができるかどうかを尋ねてワークシートに書き込んでいた（資料7）。

「自分ができることを知ってほしい。」「友達ができることを知りたい。」という子どもの意識をもとにした学習であった。

子どもの多くは、「できること」を伝えることで、自分のよさを認めてほしい思いがあり、“I can cook.”, “I can eat kimuchi.”, “I can do judo.” など、他の子どもができないようなことを選んで友達に伝えようとしていた。自分ができることを伝えて相手に聞く活動を通して、「Bさんがさかだち歩きができるのが意外でした。」「Cさんがトランポリンをできるのがビックリでした。」「Dさんはおとなしいのでスキーはしないかと思っていたら、やっていると聞いておどろきました。」など、友達の意外な面を知り、友達のことを見直す



資料4 道案内で使用した地図



資料5 ペアでの道案内

## 「できることインタビュー」



資料6 お互いのできることを聞き合う様子

Can you ~ ? Yes, I can. / No, I can't.	
自分とできることが同じ子を見つけよう、友だちの名前を書こう	
YES	NO
1 料理 さん さん さん さん	
2 シニア さん さん	さん
3 スキー さん さん さん	

資料7 できることを比較したワークシート

きっかけになった。ふりかえりでは、「友達のことがたくさん分かってよかった。」といった内容が多く見られた。子どもにとって「できること」を伝えたり比べたりすることは興味のあることである。子どもは、「できること」のやりとりを通して、自分や友達のよさに気づき、相手への思いをもつことができていた。

### 6年生 “What do you want to do?” の実践から 「夏休みにしたいこと紹介」

子どもにとって夏休みはとても楽しみなものである。“What do you want to do?”では、「小学校最後の夏休みにしてみたいことを伝えよう。」というテーマで、「友達が夏休みにやりたいことを調べる」活動を取り入れた。「自分の夏休み中の計画を伝えたい。」「友達の夏休みの計画はどうなのかな。」といった思いや興味をもち「言いたい。」「知りたい。」という思いが伴う学習になると考えた。

“I want ~.” に続ける基本表現のモデルとして、事前に go to, eat, watch, play の4つを提示した。その後、やってみたいことを考えて伝える場面では、協働学習を取り入れて、表現が分からない友達の疑問を共に考え解決する学習活動にした。ここでは、互いに「問い」のやりとりが行いやすいようにグループの人数を4人にした。少人数にしたことで、「どうい

えれば言いか」を他のメンバーに質問し、それについて、知っている子が表現を出し合い、文を作ることができていた。また、自分たちで解決できないときには、ALTに質問したり電子辞書で単語を調べたりして、自分の計画を伝えるための表現を獲得しようとしていた。電子辞書を使って調べた子どもは、音声機能を使って何度も発音を聞いて練習をしていた。

クラスでのインタビューでは、自分のしたいことを自分で考えた表現で伝えるとともに友達の言うことに興味をもって聞いている子どもが多く見られた(資料8)。インタビューをする前に、“Wow!” “Great!” “Have fun!” など反応の例を教えて、やりとりに使えるようにした。実際のやりとりでは、一部の子どもが日本語で「いっしょや。」と反応していた。英語の学習という視点では日本語で反応することは不十分ではある。しかし、思わず日本語で「いっしょや。」と言ったことは、「相手のことを知りたい。」という気持ちがもとになっており、コミュニケーションしたいという気持ちが高まっていたからである。

ふりかえりでは、「みんな海外に行こうとしている人が多くて、まんきつしようとしていた。みんなの趣味を聞いてよかったです。」「旅行に行きたい人がけっこういた。他にも友達と遊びたい人やのんびりしたい人がいた。さまざまだなと思った。」「わたしとAさんが似ていた。とっても楽しかった。」「みんな旅行に行くので、ぼくも家族でそうだんして行きたいと思った。」「ダイビングをしたいという人がいてすごいと思う。私は海に行きたいと思った。」「みんな楽しいことを言っていてお

July, 1 Oth, (Fri) Class ( 2 ) No. 13 Name ( )

夏休みにしたいことを聞こう!

I want to ( ).

Name	したいこと
自分	I want to go Sibama Sa ken'in podll.
	Sibama Sa
	東京 駅
	ダイビング

資料8 友達が夏休みにやりたいことを書きこんだワークシート

ふりかえり 15.7.10

- 自分のしたいことが言えましたか? Yes No
- 友だちのしたいことを聞けましたか? Yes No
- 自分と友だちの「したいこと」をくらべてどんなことを思いましたか?

県内と県外へ行くのかわい。いので、  
町は夏休みを来るとか、休むの思いました。

ふりかえり 15.7.10

- 自分のしたいことが言えましたか? Yes No
- 友だちのしたいことを聞けましたか? Yes No
- 自分と友だちの「したいこと」をくらべてどんなことを思いましたか?

旅行のことにしたけど、休むといふ人も  
いて夏に休むといふ人も夏に活動するといふ人  
がいてかもしらして思った。

ふりかえり 15.7.10

- 自分のしたいことが言えましたか? Yes No
- 友だちのしたいことを聞けましたか? Yes No
- 自分と友だちの「したいこと」をくらべてどんなことを思いましたか?

みんな、すごくいいところに行くみたいで  
うすまじいなと思いましたが、和も、いっか  
いんな所へ行。てみたいで!

資料9 自分と友達との比較から思ったこと

もしよかった。かなったらいいなあ。」など、友達と自分を比較して思いをもつことができていた（資料9）。

「夏休みにやってみたいこと」という身近で自分の興味に直結する内容にしたことで、子どもは、自分と友達とを比べたいという思いをもって学び、互いのことを知る楽しさを感じながら質問し合い他者への思いを深めることができた。

### (3) 自分の世界を広げるふりかえり

#### 4年生 自己紹介をしよう“When’s your Birthday?”の実践から 「誕生月紹介」

4年「自己紹介をしよう」では、単元の最後に「自分の誕生月紹介」を取り入れた。自分の誕生月の特徴を友達と紹介し合うことを通して、日本の自然や文化、行事などに気付き、関心をもつことをねらったものである。

子どもは、「I(We) have ~ .」, “I like ~.”, “I eat ~.”などの表現を使って自分の生まれた月の行事や食べ物などさまざまな特徴を伝えようと工夫して表現していた。「花火」や「かき氷」を伝えるのに“fireworks”や“shaved ice”などジェスチャーを使うことで英語表現を理解してもらえることに気付いていた。活動に当たっては、互いの言いたいことが伝わることを優先し、日本独自の文化であるため英語で表現できない時には、日本語を使って伝えてもよいことにした。“setsubun”や“joya no kane”など、そのまま日本語で伝えられることに気付いていた。

活動後のシェアリングでは、「夏に関する英語を覚えることができてよかったです。」「班の人たちのことも覚えることができてよかったです。」「さくらや雪合戦など初めて知った英語があった。」「5月の誕生石がエメラルドなど、知らなかったことが聞けた。」といったふりかえりを発表していた。誕生月の紹介を通して、これまで知らなかったことが広がる活動となった。また、「いっしょうけんめいやれば伝わるといことが分かった。」「もっと聞いてわかったことをふやしたい。」など、今後の学習への意欲を感想に書いている子どももいた（資料10）。

気付いたことや思ったことを記入する欄をワークシートに設けることで、自国の文化などに対する気付きが増えたり自分の英語が伝わる達成感を味わったりすることができた。このような経験を通して「もっと～したい」という「こだわり」が生まれることがわかった。

### 今後に向けて

やりとりする必然性のある内容や場面設定は、「学ぶ楽しさ」につながる。自己表現にかかわる内容は、子どもの「伝えたい。」「知りたい。」といった思いに沿ったものであり学ぶ意欲につながる。今後も、子どもの内発的動機づけをもとにした内容を扱っていきたい。

1学期には、グループ単位での表現活動を取り入れることができ、相手への気付きが見られた。一方、協働学習やタスク活動は十分に行えなかった。協働学習を取り入れることで、子どもが互いの思いをどのように認め合い分かち合うかを見ていきたい。

学習を通して「分かった。」「言えた。」という思いが「外国の人と英語を使って話してみたい。」という意欲につながる。日本や世界の文化に触れる学習を通して、学んだことのふりかえりを重ねることで「分かった。」「言えた。」という達成感を味わわせ、「もっと（たくさん）～したい。」などの「こだわり」から「考える子」を育てていきたい。

ふりかえり

1. 自分の誕生日のことを言えましたか? Yes No  
2. 誕生日のことを質問できましたか? Yes No  
3. いろいろな月のことがわかりましたか? Yes No  
4. 今日の英語で気付いたことや思ったことを書きましょう

うまくせつめいできなくて  
もいっしょうけんめいやれば  
伝わるといことが分か  
りました

ふりかえり

1. 自分の誕生日のことを言えましたか? Yes No  
2. 誕生日のことを質問できましたか? Yes No  
3. いろいろな月のことがわかりましたか? Yes No  
4. 今日の英語で気付いたことや思ったことを書きましょう

なんとなくわかってい  
たことばかりもしく  
かったせつものか  
わかんなくて  
です。  
もっと聞いてわ  
かったことをふや  
したいです

資料10 達成感や意欲が見られるふりかえり